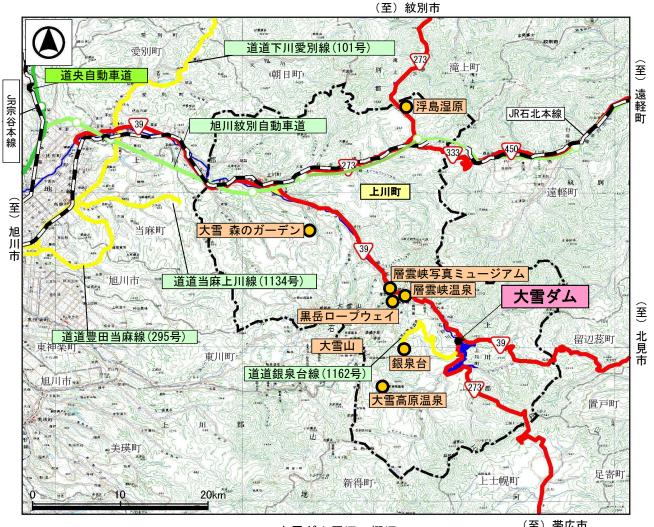
7. 水源地域動態

ダム周辺の概況(1)

- ・大雪ダムは上川町に位置し、大雪山国立公園内に立地する。旭川から北見に至る国道39号と、国道39号から 帯広に分岐する国道273号の分岐点に位置しており、国道39号、国道273号は貯水池に隣接して通過する。
- ・大雪ダム及びダム湖の上川町市街中心部からの距離は約30km、層雲峡温泉からの距離は約10kmである。

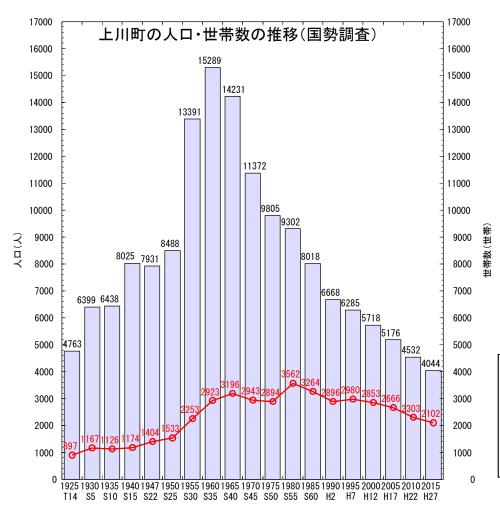


大雪ダム周辺の概況

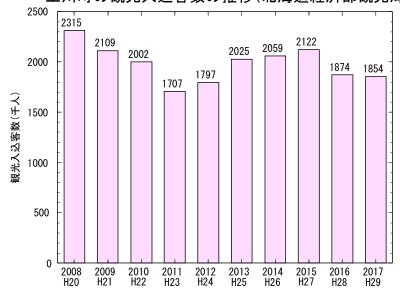
(至) 帯広市

ダム周辺の概況②

- ・上川町の人口は、昭和35年(1960年)以降減少しており、平成27年(2015年)の 人口4,044人は、昭和35年(1960年)の人口15,289人の約26%となっている。
- ・上川町の観光入込客数は概ね170万人~220万人の間で推移している。



上川町の観光入込客数の推移(北海道経済部観光局)



北海道上川総合振興局 上川管内上期観光入込客数調査報告書

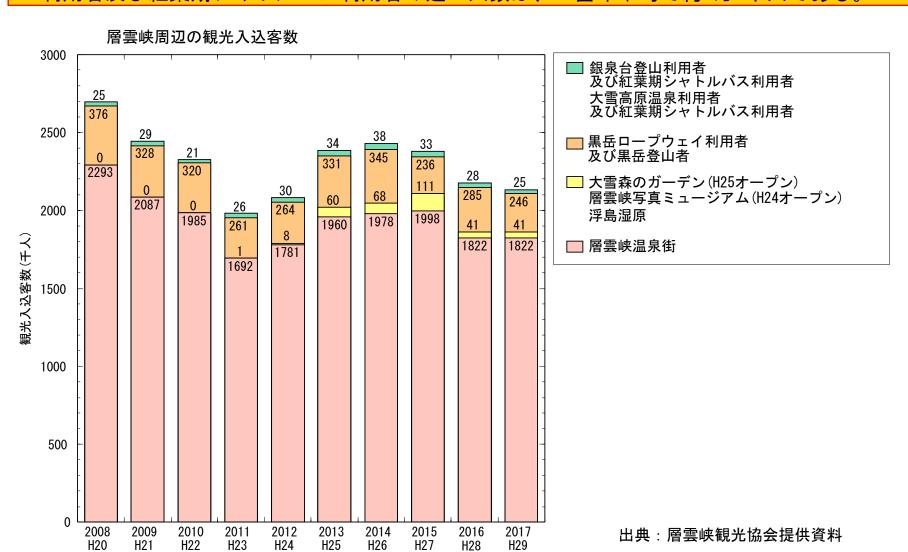
(上川町のH29(2017)観光入込客数の変化要因)

上期は週末の天候不順が影響し、「大雪森のガーデン」などの屋外施設の入込数が伸びなかった。下期は「層雲峡温泉氷瀑まつり」が人気を集めたが、悪天候による会場閉鎖などもあり、入込増に繋がらなかった。

一方で、外国人宿泊者数については、6月からのタイガーエア台湾チャーター 便の就航により台湾からの観光客が増加した。また、韓国からの団体観光客が 大幅に増加し、欧米からの個人観光客も増加傾向となった。

ダム周辺の概況③

- ・層雲峡周辺の観光入込客数は、層雲峡温泉街・黒岳の観光入込客数で約98%を占める。
- ・大雪ダム流域内に位置する銀泉台の登山者及び紅葉期シャトルバス利用者、大雪高原温泉の利用者及び紅葉期シャトルバス利用者の延べ人数は、10筒年平均で約2万9千人である。



※撮影日は全て、H30(2018).9.26日

大雪ダム周辺の整備状況



シャトルバスの駐車場として利用されている。

地域とダム管理者の関わり

- 大雪ダムでは、平成15年3月に水源地域ビジョンが策定されたが、現在、 活動は行われていない。
- ・近年においては、ダム施設見学会や、層雲峡のホテルのイベントとして、 「層雲峡スターウォッチング」などが開催されている。







黒岳新聞・写真 出典:りんゆう観光

ダム周辺の利用状況①

ダム周辺では、大雪ダム監査廊でのコンサート、夏の自然体験学校、修学旅行など、ダム湖やダム施設を活用した様々なイベントが行われており、環境学習や多くの人が集う機会が提供されている。

◆大雪ダムおよび周辺での主なイベント

開催日	イベント名	参加 人数
平成25(2013)年8月1日	上川町夏の自然体験学校	16名
平成25 (2013) 年8月3日	ダム見学会&監査廊コンサート	8名
平成25 (2013) 年8月23日	上川町ふる里祭り	ı
平成25(2013)年11月2日	上川町文化祭	ı
平成26(2014)年8月7日	上川町夏の自然体験学校	18名
平成26(2014)年8月10日	ダム見学会&監査廊コンサート	13名
平成26(2014)年8月24日	上川町ふる里祭り	ı
平成26(2014)年11月1日	上川町文化祭	ı
平成27(2015)年7月1日	上野幌小学校修学旅行	37名
平成27(2015)年8月7日	上川町夏の自然体験学校	14名
平成27(2015)年8月30日	上川町ふる里祭り	-
平成27(2015)年10月31日	上川町文化祭	_

Cardon Ca

上野幌小学校修学旅行 (H28 (2016). 7. 6)



夏の自然体験学校 (H29(2017).8.4)

開催日	イベント名	参加 人数
平成28(2016)年7月6日	上野幌小学校修学旅行	25名
平成28(2016)年8月5日	上川町夏の自然体験学校	12名
平成28(2016)年8月28日	上川町ふる里祭り	_
平成28(2016)年10月29日	上川町文化祭	_
平成29(2017)年6月20日	ダム事業の視察研修	14名
平成29(2017)年7月26日	上川ジャンプアップひろば夏	32名
平成29(2017)年8月4日	上川町夏の自然体験学校	11名
平成29(2017)年8月25日	上川町菊水老人クラブ	13名
平成29(2017)年8月27日	上川町ふる里祭り	_
平成29(2017)年10月29日	上川町文化祭	_



上川町ふる里祭り (H29(2017).8.27)



上川町文化祭 (H29(2017).10.29)

ダム周辺の利用状況②(カウント調査の結果)

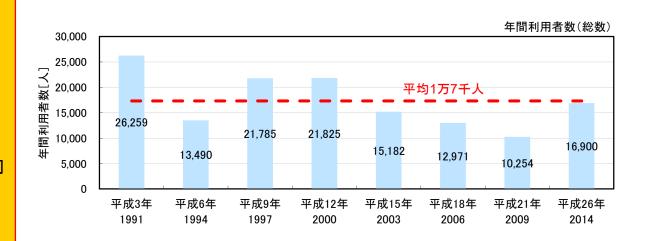
水源地域動態7

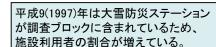
平成26年度「河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)」の結果

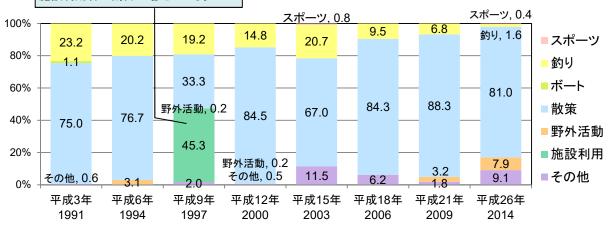
- ●平成26年度の年間利用者数は約1万 7千人となっており、平成21(2009)年 度の約1.0万人に比べると約7千人増 加している。
- ●平成3(1991)年度~平成26(2014)年度の平均は約1万7千人となっており、比較的利用者数が少ないのは、旭川から北見あるいは帯広方面へ向かう通過型のダム位置の特性によるものと推測される。
- ●H26(2014)年度の調査では、「散策」 の利用が多い。

ダム湖利用実態調査は、利用者のカウント調査を年間7日間(春季3日、夏季2日、秋季1日、冬季1日)実施し、各調査日の利用者実測数を用いて年間利用者数を推計している。

散策や立ち寄り、休憩など、施設利用に 表れない来訪者も含め、ダム湖周辺全体の 利用者数の経年的な傾向を把握することを 目的として、全国同一の方法で調査・推計 が行われている。



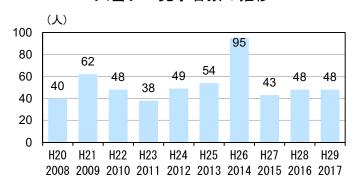




ダム周辺の利用状況③

- ・大雪ダムでは、イベントとして「ダム見学会」などが行われており、ダム操作室 やダム本体内部等の案内を行っている。
- 「ダムカード」を作成し管理支所で配布しており、配布枚数は増加傾向にある。

大雪ダム見学者数の推移

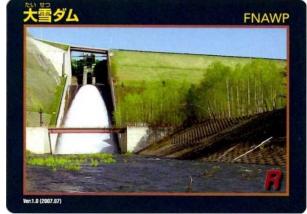


※上記の人数は、管理支所の職員が案内した見学者数である。



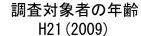




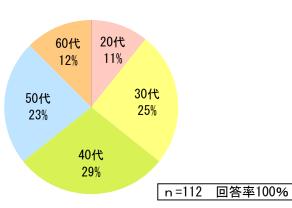


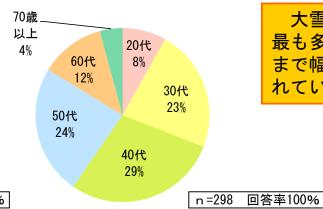
ダムカード

利用者の属性(アンケート調査の結果)①



調査対象者の年齢 H26(2014)



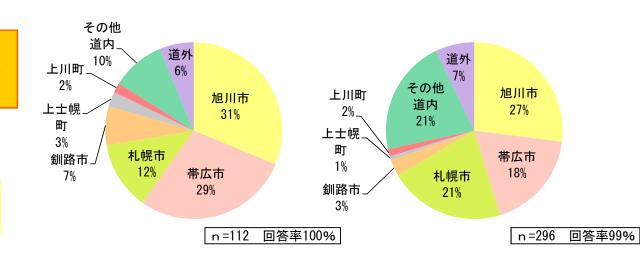


大雪ダムは40代の利用が 最も多いが、20代~60歳代 まで幅広い年齢層に利用さ れている。

調査対象者の居住地 H21(2009) 調査対象者の居住地 H26(2014)

大雪ダムの来訪者は、旭川 市、帯広市、札幌市 が多く、3 市で全体の約7割を占める。

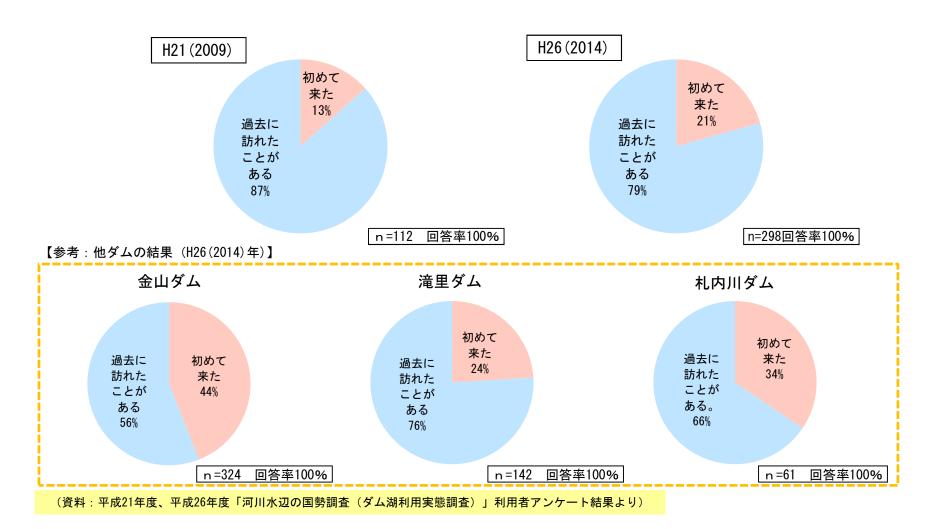
(資料:平成21年度、平成26年度「河川水 辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)」利 用者アンケート結果より)



利用者の属性(アンケート調査の結果)②

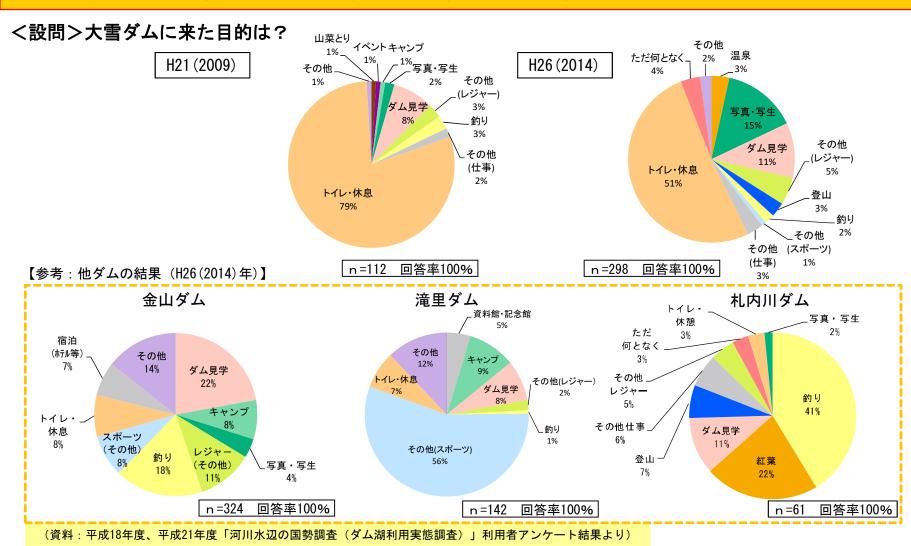
リピーター(「過去に来たことがある」と回答した人)は、平成21年は87%、平成26年は79%となっており、大雪ダムの利用者の概ね8割がリピーターである。

<設問>大雪ダムにははじめてお越しですか?



利用者の属性(アンケート調査の結果)③

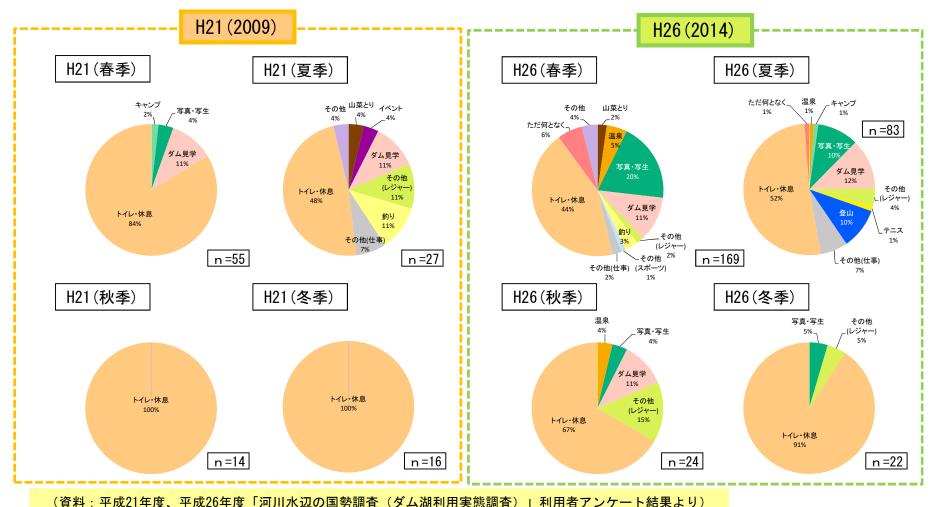
ダム利用者の目的は、平成21年、平成26年のいずれも「トイレ・休憩」がほとんどで半数以上を占めており、次いで「ダム見学」となっている。 なお、トイレ・休憩の利用は特にダム管理支所で多かった。



利用者の属性(アンケート調査の結果)④

- ・H21、H26年の春・秋・冬はいずれも大雪防災ステーションでの「トイレ・休息」の利用が多い。
- ・H26の調査では、H21の約3倍のアンケート数が得られ、その結果、春と夏の利用では「ダム見学」の他、「写真・写生」、「登山」、「釣り」など、多種にわたる利用が確認された。

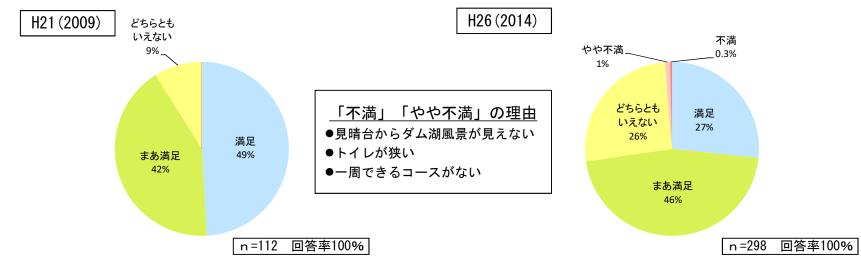
<設問>大雪ダムに来た目的は?



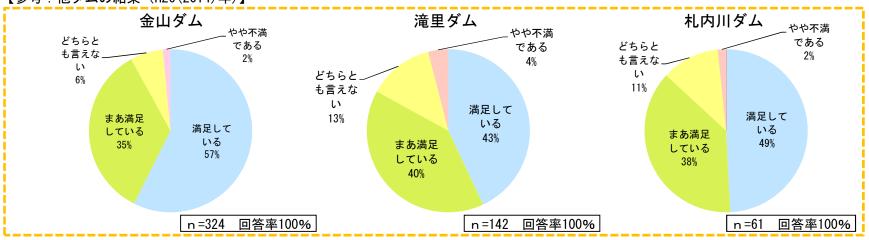
利用者の満足度(アンケート調査の結果)

大雪ダムを利用した感想を聞いた結果、平成21年は「満足」「まあ満足」合わせて約91%であったが、平成26年は73%と利用者の満足度は2割程度低くなった。

<設問>大雪ダムを利用した感想は?



【参考:他ダムの結果(H26(2014)年)】



(資料:平成21年度、平成26年度「河川水辺の国勢調査(ダム湖利用実態調査)」利用者アンケート結果より)

水源地域動態のまとめ

◆水源地域動態のまとめ

項目		まとめ
地域との 関 わ り	地域の交流・ 連 携 等	●大雪ダムは、ダム湖周辺に広がる豊かな自然環境があり、地域の憩いの場、 交流の場としての機能を有しているが、多くの人が訪れる施設はなく、国 道39号と、帯広市へと繋がる国道273号の交通の要所になっている。
	情報発信・ 学習の場等	●大雪ダムではダム見学会を実施している。●利用者の目的は、大雪ダム管理支所及び大雪防災ステーションでの「トイレ・休憩」場所として利用されている。
利用	大 況	●年間利用者数(推計値)は約1万7千人である。

◆今後の方針

項目	まとめ
地 域 と の 係 わ り	●豊かな自然環境を保全するとともに、自然環境を活かした教育や学習の場としてダム 湖周辺を活用するとともに、利用者のニーズを把握し、より一層、活動内容に反映し ていくよう努める。
利 用 実 態 調 査	●今後も利用形態のアンケート調査を継続的に実施する。●季節毎の利用状況に関する調査、周辺の拠点施設を含めた調査等を実施し、利用者の動向を多面的に分析する。
今後の維持管 理の留意事項	●快適な施設利用ができるよう維持管理を行っていく。
そ の 他	●上川町や周辺自治体の観光協会、民間事業者等と連携しながら、年間利用者数が増加するよう努めていく。